

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホームこせん 1F		
所在地	熊本市中央区壺川二丁目3-70		
自己評価作成日	令和5年3月6日	評価結果市町村受理日	令和5年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設12年目を迎え、地域の方や他事業所からも様々な場面でお声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の方々に支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員になれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍と人員配置の面から以前のような外出や入浴支援など難しい面もあったが、管理者は現状の不備などを真摯に振り返りながら今後の取組など新たな目標を語っている。開設時から市場からの配達食材などこだわりを持ってホーム内調理が継続され、手作りおやつを提供も入居者の楽しみとなっている。今後は更にテーマを決めたメニューについても検討していきたいとしており、実現が期待されることである。住宅街に建つホームは、1階、2階にユニットが配置されているが、職員は双方の入居者を担当することで多くの職員の気づきが支援に反映されており、ケアマネジャーは本人・家族の意向、職員の気づきを活かしたプラン作成に努めている。幼児から高齢者までが共に暮らす地域であり、以前のような交流が早く行える時が待たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設12年目にあたり入所契約書に基づいた日課の提供が乱れてきている感があり、原点に立ち返るという観点で見直しを実施した。その際に課題を数箇所挙げる事が出来た為、それに基づいて理念の変更を検討することになっている	開設より12年目となるホームではこの一年を振り返り、定年や移動、休職などにより職員の入れ替わりや感染症対策に翻弄された年であったとし、原点に立ち返り新たに入職した職員を交えて入居者支援に力を注ぎたいとしている。理念については見直しの機会を持っており、今後新たなものにするか否かを再検討したいとしている。	管理者はリスク管理について目標を立てて取り組みたいとしている。年度初回の運営推進会議では理念の変更の有無にかかわらず、会議の中で改めて啓発したり、リスク対応の目標を紹介することでホームの取組の一端を発信されたと考える。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大により、地域との繋がりがほぼ切断された状態になっている。ただしこの中でもプレイパークや堤防の散歩は継続出来ており、その際に地域の方々と触れ合いできている点で何とか地域との関わりを維持している。昨年春にはおとなりの住人の方よりe-sportsを用いた高齢者支援の使用されている方の紹介をしたいという話を伺っている。	感染症の状況を見ながら遠出を避け、ホーム近くの公園や河川の堤防までの散歩に出かけ、近隣の人々と言葉を交わしている。この春には花見学を兼ねて地域へ出るように検討しており、地域行事などが制限される中、ホームに出来る事で支援している。	感染症の収束を見据え、運営推進会議の直接開催に向けて地域代表者とコンタクトを取ったり、情報の収集により入居者が地域へ出る機会を検討願いたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	項目2と同様コロナウイルス感染拡大により、地域貢献ということがなかなか出来ない。この期間、廃品回収のお知らせがあり準備をしていたものの、感染拡大より廃品回収が中止になりそれ以外は目立った貢献が出来ていなかった。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の状況により 昨年は1回しか会議が開催できなかった今年度も1度も開催できなかった。現在は運営推進会議が書類対応になっているため町内会の役員の家に挨拶と報告を行っている。役員さんとは主にコロナウイルスの感染状況やワクチン接種についての情報交換等を行った。	運営推進会議は直接開催を避け、関係者への資料の手渡しや送付による書面審議としている。資料には会議の目的や意義を説明し、ホームの現状や職員移動について紹介している。広報誌(こせん便り)で入居者の近況を見てもらうようにしており、地域代表者からは感染症の状況などについて質問があがっている。	入居者の入れ替わりが多い年であったことから運営推進会議の資料を送付するものの、家族に会議が浸透しているとは言えないとして、これから理解を得ていきたいとしている。新年度には直接開催を検討しており、家族の参加が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に生活保護の受給者の方が退所されたことにより、特にそれまでパイプが強かった市(中央区保護課)との連携が弱まっている。これにはケースワーカーさんが1年毎の交代に絡まったこともあり、その傾向がますます強くなっている。	行政(市の保護課)とは入居者を通し連携を図っていたが、退所に伴い直接的な関係性はなくなっている。転倒などに関する事故報告書の提出やメールなどでのやり取りを行い、運営推進会議のメンバーである包括センターとのつながりも会議開催がないことで、直接的な関わりは少なかったようである。	運営推進会議の直接開催を前に関係する包括センターとの連携が期待される所であり、事前連絡などを通してホームからの発信を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回は実施。特に今年度の春先に転倒事故が相次いだため、その点についてはかなり力を入れて検討を実施した。	身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に勉強会の機会をもっている。職員が拘束や虐待に対する身近な問題や、テレビなどの事例からホームや自身に置き換えて話し合うようにしている。転倒事故が続いたことで安全確保のため家族の了承を得てセンサーマットを使用している。	センサーマットについては家族への事前説明と承諾を得ており、今後も会議の中で使用状況や継続を含めた話し合いが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	人体拘束委員会や勉強会などを通じ虐待防止の徹底を務めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コメント特に成年後見に関する制度の適用や申請に関するご相談が多くささえりあやこちらスタンド法律相談の受験や活用方法の支援を実施したりして使った弁護士会の法律相談等の助言を行ったりした		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	昨年度は、入退所が前回評価時と比較すると、3分の1近くとかなり多かったこともあり、回数を重ねる事で出来る限り詳細な説明を行い、納得頂けるような反応を頂く事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	この2年間家族会は開催することが出来ず、春先に個別面談という形でご家族へ説明会等を実施していた。今後の開催がある時にはまず役員改選を行うことが最重要になっている	現在面会は窓越しで行っており、家族の来所時には直接話を聞くようにしている。成年後見人制度について質問を受けたり、面会についての要望が最も多く、コロナ禍以前の体制に一日も早く戻ることを望まれている。ホームの状況は運営推進会議資料等で共有している。入居者の意見や要望は日常の関わりから引き出しており、買い物の希望について職員が対応し、家族には収支報告により管理している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今回はケース検討開催する機会が多く、相談で決める課題が多かったので今年度はアンケート積極的に行い個別の意見を聞いて、出来る限り返答や答を求めるとし、日常のケアの改善を実施するようにしていた	職員意見は会議や普段から聞くようにしており、出された意見には早めの検討を心掛けている。働きやすい職場環境に努め交代でゆくり食事を摂ってもらうように改善している。職員配置などもありなかなか有休が取れない状況として、今後取りやすいような状況にしなければならないとしている。	職員の人員体制については法人と連携し、安心して業務に就いたり休める体制づくりが必要と思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今まで曖昧だった休憩時間について、食事時間の決定と休憩の時間を停止に決めしっかりと休憩を取るよう改善することが出来ている。現状では一階と二階では休憩するためのスペースに差が出来ているため、その解消できるかが今後の検討課題と考えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	この2年間に入職した職員については初日に管理者よりオリエンテーションを実施。法人の三大理念、それを支える記録用紙の付け方や、ビジネスマナー等も実施。初期のトレーニングについては以前に比べれば長くできるようになり、1ユニット2週間を確保している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この期間では 料金値上げによりに入所継続を難しかった他のグループホームからの入所の受け入れを実施。またその事業所とは、法人グループ内の福祉機器事業所より、車いすや他の機器の購入を紹介することが出来、当社の設備投資に大きくプラスとなった。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の話に耳を傾け、ゆっくり聞くことを大切にしている。会話の中にある不安、要望など聞き逃さないようにしている。又、得た情報をスタッフ間で共有し不安や要望の解消に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と個別に話し合いを機会を持ち、要望や不安などを聞き取りを行っている。必要時には連絡を行い、状況を報告し情報を共有し、信頼関係を築けるに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族が安心して生活できるように、必要としているサービスを代弁するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の手伝いや洗濯もの畳み、食器拭きなどできることをスタッフとともに行って頂き、毎日の生活を担っているという自覚を待っていただけるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には行事やイベントなどの案内を行い、参加を募っている。ご利用者とご家族と一緒に過ごせる機会を持ち楽しい時間を過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活されてきた環境が維持できるように努めている。居室に写真や大切にされたいたものを置いたりしている。	入居者は面会や手紙、電話などで家族とつながり、コロナ禍により関係性が薄れないように努めている。中には居室に家族写真を置いたり、家族から届く手紙を楽しみにされる方もおられるようである。入居者同士職員との関わりも馴染みの関係であり、調理への関わりや洗濯物たたみなどを通じて会話を広げたり、入居者同士の雑談を見守りながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置にも配慮し、会話や交流がしやすい環境作りに努めている。また、関わりができるようにスタッフがご利用者間の間に入り、関りが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所された先の問い合わせ等に応じ、ご利用者の必要な情報提供を行っている。また、逝去された方のご家族がにも行事やイベントの案内を連絡したりして、関係を繋げて行けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	中庭ではあるが、外に出ることで手を汚してズボンを汚して草取りや木の実を集めることを楽しみにされている利用者の自立支援に努める。	入居者の思いは共に生活する中でくみ取り、入居前の生活歴やホームでの暮らしぶりからその人らしい生活が継続できるように支援している。普段の活動に入居者の持てる力を生かしてもらい、自信をもって過ごしてもらうよう後押ししている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	散歩の対応や音楽の先生への電子ピアノに触れる時間を設けて対応を行う。各々の得意な分野を見つけては導入し又、見つけては導入しその人にとっての計画書の作成に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の状態や状況には一人ひとりの個々の対応が必要で少し似通った利用者もいらっしゃるが、年齢も違えば生まれた場所も違う言葉でも熊本広し色々な方言がある 一人の個性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者には 担当者をつけておりその担当者の考えを反映できるように、モニタリングや現場での出来事などを把握して今の状態に必要なことに着目して対応を行う。 更にご家族の協力がが必要な場合は協力を求めている ご家族との面談は直接会うことができずに電話やお手紙などにてコミュニケーションを図る	職員を入居者の担当制としており、アセスメントやモニタリングには職員意見が反映されている。ケアマネジャーは入居者の状態変化に短期で見直しを図り、進行の速さに対応して食形態や介助の見直し、声掛けは言葉を繋ぐようにゆっくり、はっきり伝える事でコミュニケーションをとり、他者との交流を支援する事などをあげている。内容を全職員と共有して対応するとともに家族へはわかりやすい言葉にて説明しており、了承が得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者にはたいしては、申し送りの記録簿があり、全体的な把握をこの記録簿を利用して観ながら詳細についてはスタッフの聞き取りや生活記録の内容を見て対応して介護計画への反映を行う		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者との関りを現場の一員として中に入りその時々のニーズの把握に努めどんなことがニーズの中でどんな問題があるのかを実際を目で見て耳で聞き感覚で感じながら反映をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域VRとの関りは現在中止しています。 現状での地域資源としては専門医との繋がりが全般になる 疾病が生じてしまうことでは係りつけ医の指示により受診等を計画してご家族の協力の中で受診をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が2週間に1回の定期回診を実施。また緊急時を含め、診療時間外においても看護師は指示に従って専門医の受診依頼を家族にもつなげることができていた	現在、全入居者が2週間に1度、協力医療機関による訪問診療を受けており、必要に応じて家族へ電話で結果報告を行っている。また、管理者は毎月の請求書の中に、看護職員から受けた報告などを含め、健康状態を記入している。専門科の受診は基本的に看護職、家族としているが、ホームでの対応も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師とは24時間オンコール体制での対応となっている、今年度今まで勤めていた正看護師が7月末に退職のため一時的に空白の期間となったが8月下旬より新たな正看護師が入職。オンコール体制を継続している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この期間の入院対象者には比較的認知症状が進み BPSD が多く見られることが多く、その方々についての具体的な対応について情報提供を行った。また受け入れる際にも現状に対応できるようにレイアウト変更 同時にスタッフが立ち会う事でより安全な環境を確保することができた		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特にコロナ禍ということで、ターミナル期に入った後での面会に困難を極めることになった。ただし一階や二階の窓際で中庭を通りサッシから直接入室できる方については面会対応することが出来た。また2階の方については、リビングにて、他の利用者に居室へ戻ってもらい、ご家族とご本人のみで対面出来る形をとった。	入居時に看取り支援に関してホームの取組を指針をもとに説明をおこなっている。その際、事前指定書への記入を受け、必要時に確認している。主治医は家族の意思を尊重されており、状態変化時は家族との話し合いの機会が持たれている。現在殆どの家族がホームでの最終を望まれている。前年度ホームで看取り支援が行われた際は、感染症対策を施し、家族が毎日面会され、最期の時を安心して過ごされたようである。居室の変更は基本的に行われませんが、重度化・終末期支援時は、面会や訪問診療への対応から本人・家族の了承のもと実施している。	看取り支援後の振り返りや研修会により、職員間の共有が図られている。今後も日々の関わりを大切にしながら本人・家族の意向に沿った支援の継続に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や救急救命の勉強会を実施している 特に今年度の春先は 救急搬送要請が遅れたもののためたまたま管理者や看護婦が日勤で常駐するためにうまくいったケースも考えられる もし看護師管理職が不在時でもその日にできるかがはっきりと 答えられるか今明確ではないがそれができるようにさらに 技術向上を目指すことにする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	この2年間で令和2年豪雨や台風10号接近と線状降水帯発生が想定できる事態が発生、2日間2階での垂直非難を実施。今回はグループLINEから職員間の連携についても行う予定で今年9月に1度実施したが、またそのうちについては改良の余地があると思われた	豪雨や台風接近、線状降水帯発生が想定出来る事態では、2階ユニットに垂直避難を行っている。職員間の連絡をグループラインで行う訓練を9月に実施しており、今後も反省点などを活かしていきたいとしている。火災に関して今年度は、避難経路や夜間を想定した机上訓練1回のみとなっている。	今後も火災、自然災害について職員間の意識を高め、有事に備えていける事を期待したい。火災については火を出さない事が一番であり、今後もコンセントの埃やホーム周辺に燃えるものはないかなど、日々の安全チェックが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格、認知症の進行の違いを理解し、その人にあった対応を心がけている。認知症に関する勉強会を行ったり、日頃の言葉遣いを職員で注意し合っている。	一人ひとりの尊厳に配慮した支援を心掛け、研修会などで周知を図っている。言葉使いなど気になることは、職員間で注意し合えるようにしている。呼称は苗字や下の名前など希望や反応などから対応している。身だしなみの支援の一つとして、職員からの提案で朝からホットタオルが準備されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が判断するのではなく、本人に希望、意思確認を取ってから判断している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調気分は、その人のように過ごしたいか、本人の希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝よりホットタオルで顔拭き、覚醒を促し身だしなみを整えてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや器への盛り付けを見守りながら行なっている。見た目もおいしそうに思ってもらえるように、カラフルにしたりしている。入居者に食べたいものを聞くなどして、メニュー考え職員が、手伝いできる方と一緒に食事作りをしている。	開設時から各ユニットを一軒の家として、献立作成や調理が行われ、個々の嚥下力に応じた食形態で提供されている。正月やひな祭りなど行事食を取り入れ喜ばれており、普段の食事では丼ものを好まれるようである。また、おやつも手作りを取り入れており楽しみにされている。職員も同じものを摂っており、思いを共有できている。入居者が食に関わる機会は以前より少なくなっているが、野菜の皮むきなど、できる事に取り組んでもらっている。	入居者の食事への楽しみが広がるよう、今後はテーマを決めたメニューを提供していきたいとしている。取組が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ好みや嚥下状況により、とろみをつけたり、ゼリーを作成して水分提供している。1日の水分量のトータルを、水分チェック表を用いて算出、それぞれが飲用量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事が終わった方から声かけし実施している。口腔ケアの仕方が分からない方には、自分でできる様声掛けを工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導表をもとに、利用者様と排泄間隔を把握し全員で情報共有をしている。日中は共用トイレでの排泄誘導を基本としている。排泄は入室の尊厳にも繋がることなので、トイレ内は臭気を含め清潔を心がけ気持ちよく使用できる様に支援。日中は布パンツの他にパット、リハビリパンツを使用される方がおられ、個別に対応している。	個々に応じた声掛けや誘導、自立の方の継続ができるように支援している。排泄用品も昼・夜の使い分けやパットの併用など個別で検討しており、排泄用品は家族の持ち込みが殆どであり、適切な用品について連携を図っている。ポターブルトイレは夜間のみや一日を通して使用される方がおられ、室内に設置することから特に清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取 は午前午後体操服 歩行運動的な動きを取り組みおやつにきな粉牛乳やヤクルトを提供できるだけ下剤をしないして自然な排泄を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を積極的に取り入れている。完全な介助が必要な利用者様には、かけ湯、足浴を実施している。週3回の入浴を、自立されてる方を先に、介助が必要な方を後に実施している。夕食後の入浴は、数名の方が楽しんでいる。入浴と楽しみは個々に異なることから、職員がアイデアを工夫することが期待される。季節湯等の告知もおこなっている。	脱衣所や浴室は清潔に管理され、夏場の入浴は週3回支援しているが、9月以降は週1～2回となっている。拒否をされる方にも職員が声掛けなどを工夫しできる限り入ってもらい、間隔が空かないようにしている。回数が少ない方には、ゆっくり楽しめるよう努めている。現在、身体状況からシャワー浴が中心の方が3割ほどおられる。季節湯として5月に菖蒲湯が支援されている。	現在、人員配置などの面から回数など入居者の希望に応じた入浴支援の実施には至っていないようである。体制を整えば入居者の楽しみとなる入浴支援について検討し、取組に至ることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の入床される時間やタイミングに基づき支援を実施している。一旦眠られた後で、再度覚醒された場合リビングでお茶を提供し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届くと初めて薬剤情報や文章を確認する処方薬が変更していればミッションクリアケース記録会を閉じるなど職員間で共有できるようにしている。攻略支援は確実に食事した顔口腔内を確認して確かめている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	離れているが好きな業者には大事庭でガーデニングをしていただいたり気分転換にオーブの近くを付き添いのもと散歩するなど対応している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム外周に散歩しやすい土手がある。現在歩行状態が良い方が居ないため時間が許す時は車椅子で近距離外出し気分転換して頂いている。	車椅子を利用した方の外出支援が多くなっており、近隣への外出が中心となっている。外出を含め活動の様子は広報紙で紹介している。依然のようなドライブや帰省、外食など家族の協力を得た外出を早く行えるよう感染症の終息を管理者は語っている。	気候の良い時期は限られており、今後も個々の状態に応じ、近隣の散歩など継続して支援いただきたい。また、玄関先はスペースも広く、車の往来などを見ながら、外気浴の機会に期待したい。感染症終息後の外出について、入居者、職員と一緒に先行の希望等気持ちを高めておくことも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣いを家族から預かり、いつでも買い物が出来るよう支援している。家族がお金を管理しこちらから必要な物を伝え買って来てもらったりもして家族と連携をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけて欲しいと要望があればホームの電話を利用していただけるが、自ら要望する方は居ない。家族から電話があった際代わり会話して頂いたりする。手紙も要望があれば対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、光等調節している。リビングには季節感を取り入れた物や居心地が良くなるよう懐かしい歌謡曲など流したりしている。	静かな住宅街に建つホームは、床暖房が備わった1階ユニットと採光や眺めの良い2階ユニットが配置されている。日中の殆どをリビングで過ごす方や、食後を居室で休息する方など、入居者は思い思いの時間を持たれている。感染症への対応から共用空間は特に、掃除や換気、必要に応じた消毒が行われている。外出を控えている分、ホーム内ではレクリエーションや好きな塗り絵など入居者の希望を聞きながら工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ・TV・新聞・花など置いてあり一人になることが無いよう声掛けをしている。スタッフと一緒に洗濯たみなどお手伝いしてもらったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでいた所のように家具を配置したり家族の写真などを飾り安心して過ごせるよう工夫している。	掃き出し窓で開放感のある居室には、自宅で使用していた家具をはじめ、必要な衣類・小物の他、観葉植物や家族の写真などが飾られている。コロナ禍にあり衣替えなど職員が中心に行っており、不足の品などがあればその都度家族へ報告を行っている。入居年数とともに、身体機能が低下された方もおられ、居室内は特に安全に過ごせるよう配慮している。	面会を控えている家族にとって居室内の状況は気になる点と思われ、家族の安心につながるような報告が必要と思われる。面会が再開された際には、改めて家族と一緒に居室内の環境について検討される機会を持つ事も良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に出来る事を維持してもらえよう、行動空間や居室など工夫を行っており自立と安全のバランスに気を配っている。歩ける方は歩行状態が不安定な為、見守りを強化している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホームこせん 2F		
所在地	熊本市中央区壺川二丁目3-70		
自己評価作成日	令和5年3月6日	評価結果市町村受理日	令和5年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設3年目を迎え、地域の方や他事業所からも様々な場面で声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の方々に支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員になれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設12年目にあたり 入所契約書に基づいた日課の提供が乱れてきている感があり、原点に立ち返るという観点で見直しを実施した。その際に課題を数箇所挙げる事が出来た為、それに基づいて理念の変更を検討することになっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大により、地域との繋がりがほぼ切断された状態になっている。ただしこの中でも プレイパークや堤防の散歩は継続出来ており、その際に地域の方々と触れ合ってきている点で何とか地域との関わりを維持している。昨年春にはおとなりの住人の方よりe-sports を用いた高齢者支援の使用されている方の紹介をしたいという話を伺っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	項目2と同様コロナウイルス感染拡大により、地域貢献ということがなかなか出来ていない。この期間、廃品回収のお知らせがあり準備をしていたものの、感染拡大より廃品回収が中止になりそれ以外は目立った貢献が出来ていなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の状況により 昨年は1回しか会議が開催できなかった今年度も1度も開催できなかった。現在は運営推進会議が書類対応になっているため町内会の役員の家に挨拶と報告を行っている。役員さんとは主にコロナウイルスの感染状況やワクチン接種についての情報交換等を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に生活保護の受給者の方が退所されたことにより、特にそれまでパイプが強かった市（中央区保護課）との連携が弱まっている。これにはケースワーカーさんが1年毎の交代に絡まったこともあり、その傾向がますます強くなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回は実施。特に今年度の春先に転倒事故が相次いだため、その点についてはかなり力を入れて検討を実施した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人体拘束委員会や勉強会などを通じ虐待防止の徹底を務めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コメント特に成年後見に関する制度の適用や申請に関するご相談が多くなり、あやこちらスタンド法律相談の受験や活用方法の支援を実施したりして使った弁護士会の法律相談等の助言を行ったりした		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	昨年度は、入退所が前回評価時と比較すると、3分の1近くとかなり多かったこともあり、回数を重ねる事で出来る限り詳細な説明を行い、納得頂けるような反応を頂く事が出来た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	この2年間家族会は開催することが出来ず、春先に個別面談という形でご家族へ説明会等を実施していた。今後の開催がある時にはまず役員改選を行うことが最重要になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今回はケース検討開催する機会が多く、相談で決める課題が多かったので今年度はアンケート積極的に行い個別の意見を聞いて、出来る限り返答や答を求めるようにし、日常のケアの改善を実施するようしていた		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	今まで曖昧だった休憩時間について、食事時間の決定と休憩の時間を停止に決めしっかりと休憩を取るよう改善することが出来ている。現状では一階と二階では休憩するためのスペースに差が出来ているため、その解消できるかが今後の検討課題と考えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	この2年間に入职した職員については初日に管理者よりオリエンテーションを実施。法人の三大理念、それを支える記録用紙の付け方や、ビジネスマナー等も実施。初期のトレーニングについては以前に比べれば長くできるようになり、1ユニット2週間を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この期間では料金値上げにより入所継続を難しかった他のグループホームからの入所の受け入れを実施。またその事業所とは、法人グループ内の福祉機器事業所より、車いすや他の機器の購入を紹介することが出来、当社の設備投資に大きくプラスとなった。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階でも、本人の情報をより多く集める事を念頭に置いている。その情報を職員間で共有しケアに活かすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意思を尊重したうえで、家族の要望を出来る限り、実践できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを確認し状況をふまえ、今必要な支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に出来る事は実施するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子を伝えるよう心がけ、家族との絆を大切にするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を尊重し馴染み親しんだ物や想いを大切にしている。社会の状況に応じ、面会にもその都度工夫して支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や力量を見極め職員が積極的にかかわり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も出来る限り関係性を継続するよう努めている。退所された利用者様のご家族様からイベント手伝う事をぜひ読んでほしいと声を頂いている現在はこの中で整理できていないか心強く思っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿うよう過ごしやすい毎日が送れるように、スタッフ間でも支援に努めている。重度の認知症に対して理解が難しい方には、その都度計上しその方の気持ちに沿った暮らしができるよう努めている。また過ごしやすい環境の提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や情報収集を行い、これからの暮らしに役立つ様試みている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムに合わせてその人らしく生活できるよう努めている。歌を使って小さなことでも気づき合い、話し相手を務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したケアプランなど家族の要望や本人の状態変化があった場合にモニタリングを行い、利用者様家族様の現状に合わせて変更行っている。例えば計算が得意な方には、相談し家族にドリルを依頼し毎日1ページずつ取り組んでもらう様プランの中に入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子等はケース記録や暮礼ノートを活用し情報を得るようにしている。会議で個別ケアカンファレンスを行い介護計画の見直しにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の展開の中で緑の利用者様の家族に対しては感染対策に留意し特別に何時間の面会ができるようにしていた。また SNSを活用しご家族様とな了解のこと日常生活だと配信の支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域行事には参加できていない状況が続いているが天気の良い日は散歩に出かけすれ違う地域の方に挨拶や応援を答え楽しまれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が2週間に1回の定期回診を実施。また緊急時を含め、診療時間外においても看護師は指示に従って専門医の受診依頼を家族にもつなげることができていた		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師とは24時間オンコール体制での対応となっている、今年度今まで勤めていた正看護師が7月末に退職のため一時的に空白の期間となったが8月下旬より新たな正看護師が入職。オンコール体制を継続している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この期間の入院対象者には比較的認知症状が進み BPSD が多く見られることが多く、その方々についての具体的な対応について情報提供を行った。また受け入れる際にも現状に対応できるようにレイアウト変更 同時にスタッフが立ち会う事でより安全な環境を確保することができた		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特にコロナ禍ということで、ターミナル期に入った後での面会に困難を極めることになった。ただし一階や二階の窓際で中庭を通りサッシから直接入室できる方については面会対応することが出来た。また2階の方については、リビングにて、他の利用者に居室へ戻ってもらい、ご家族とご本人のみで対面出来る形をとった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や救急救命の勉強会を実施している 特に今年度の春先は 救急搬送要請が遅れたもののため管理者や看護師が日勤で常駐するためにうまくいったケースも考えられる もし看護師管理職が不在時でもその日にできるかがはっきりと 答えられるか今明確ではないがそれができるようにさらに 技術向上を目指すことにする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	この2年間で令和2年豪雨や台風10号接近と線状降水帯発生が想定できる事態が発生、2日間2階での垂直非難を実施。今回はグループLINEから職員間の連携についても行う予定で今年9月に1度実施したがまたそのうちについては改良の余地があると思われた		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が居室で過ごす時間を希望される場合には、その意思やペースを尊重している。排泄については、ポータブルトイレを日中にも活用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が居室で過ごす時間を希望される場合には、その意思やペースを尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要介護者の高い利用者が多く、長時間リビングでの姿勢維持が困難がこともあり、午後を中心に画商時間を設け、ゆっくりと徐幹を		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、ホットタオル洗面を実施、衣類はご本人の好みに合わせ、衣類を準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況に応じて、季節のものや、誕生日行事時にお祝い用の食事を提供するようにし、毎年誕生会には、午後のおやつに手作りのバースデーケーキを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食以外にも、二度炊き飯や、刻み職、ミキサー食等形態を取り入れている。水分は、チェック表を使用し、水分量の把握に努める。補水強化のため、紅茶ゼリーを使用し水分摂取支援を行うりしょ者もおられる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身でされる方もおられる。うがいが困難な方もおられるため、その方々には、口腔ケアスポンジを使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄を排泄表にチェックし、利用者様個々のパターンを把握し、本人に合わせた時間に誘導し、できるだけ失禁のないように心がけている。夜間の失禁がある方でも排泄表によって予測し、前もって声掛けし、失禁が減少した。また下剤使用時も使用時の感覚をつかみ、失禁がなくなるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後、きな粉牛乳やヨーグルト乳製品を提供して、便秘がある方はご家族に相談しに飲むヨーグルトをとって飲んでいただいている。また歩行できる方は歩行訓練で便通の促進につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決まっている入浴日以外に、本人の希望によって日にち時間をずらす対応をしている。入浴拒否がある方は、声かけを工夫して入浴していただいている。脱衣所にエアコンがないため、冷風機や温風機を使用し室温調整をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外への散歩や室内歩行訓練を行い生活リズムを調えている。浅い眠りの傾向の方は、眠前薬の与薬時間をずらしたり、日中画商対応をしている方は、ラジオや音楽をかけ昼夜逆転がないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週水曜日薬セッティングの際に、ケース記録に毎週最新の臆する情報と閉じている また薬の変更があった場合 生活日誌や、暮礼ノートに記入し、各スタッフが確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の利用者の職歴や好きなものを情報収集し、音楽や踊りピアノ等をレクリエーションに取り入れている。またコーヒーや菓子、ワインなどの嗜好品を、ご家族持ち込みや預かり金で購入して提供し喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のなかで、外へ出す機会は激減しているが、可能な限りプレイパーク周辺やホーム内駐車場の散歩を実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、預り金は管理者が事務所で管理。必要に応じ、ご本人から物品購入の依頼があった場合、また生活必需品が不足している場合には購入支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族のご希望で、ご家族から手紙を送ってこられる方がおられ、必要に応じて、代読や返信を書いてもらうことがあり、その支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1Fに比べて光が入りやすい環境のため、サッシに近いエリアでは明かりを消したり、西日が入る夕方には、レースカーテンを閉めて調整。リビングには季節感を採り入れた物や居心地が良くなるよう懐かしい歌謡曲など流したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご家族からお花が届くことがあり、生け花がという特異な利用者に行けてもらっている。。スタッフと一緒に洗濯たみは、その人のレベルに応じた能力を発揮できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでいた所のように家具を配置したり家族の写真、家族からのなど飾り安心して過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に出来る事を維持してもらえよう、行動空間や居室など工夫を行っており自立と安全のバランスに気を配っている。歩ける方は歩行状態が不安定な為、見守りを強化している。		